

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070103373
法人名	有限会社 ライフパートナー
事業所名	グループホームすずらん内原
訪問調査日	平成 21 年 8 月 7 日
評価確定日	平成 21 年 9 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070103373		
法人名	有限会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホームすずらん内原		
所在地	和歌山市内原634-1 (電話)073-447-2940		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2階		
訪問調査日	平成21年8月7日	評価確定日	平成21年9月7日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り	
	1階建て	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(平成21年4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	75歳	最高	105歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	たばた内科	まとう歯科
---------	-------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家風の建物を入ると事務所をはさんで左右に1ユニットずつのホームで隣にデイサービスも併設され、全体的に明るく落ち着いた雰囲気となっている。職員は本人本位の個別の働きかけをしていて、入居者はゆったりした建物内を自由に行き来しながら各々自分のペースで過ごしている。前年度は職員の異動が多く、入居者・職員共に不安な時期もあったが、新任の管理者はこれまでの利点を残しながら、更に全員が居心地良く過ごせるように日々努力している。また、新旧の職員と情報の共有・意志の疎通を計りながら、職員体制の見直しなど具体的な改善策を実行している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度は管理者・職員共に異動が多く、日常の業務の維持に追われて、外部評価の改善課題には取り組めなかった。地域密着型サービスの理念の構築、運営推進会議の定期的開催は引き続き改善点となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員各自が取り組み、日頃のケアの振り返りや具体的な改善への意識付けができた。管理者がそれらをまとめ、各ユニット毎に丁寧な評価がなされた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議の開催は年1回に留まっている。管理者は会議の意義や持ち方を模索しながらも、前回欠席の民生委員にも働きかけ、地域との連携を期待した取り組みを前向きに検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時には家族とじっくり話す時間をもち、会えない家族とは介護計画などについて電話で意見を頂く。4ヶ月毎に開かれる家族会では利用者と家族のふれあいに加え、所長・管理者も同席して意見交換の時間も設けて、要望や不安を日頃のケアに活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	早い時期より自治会に加入し、また近くに住む職員もいて地域の情報を得て、清掃活動にも参加している。事業所主催の夏祭りには毎年近くの新興住宅の住民を招待し、大勢の子供達の中、入居者も楽しい一時を過ごしている。近隣の保育園児の定期的な訪問もある。近くの畑でとれた野菜を頂いたり、その方が玄関先の椅子で一息されたりと、少しずつ地域との交流も広がっている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念をユニットごとに掲示しているが、その人らしく暮らせる支援に留まり、地域の中で生活する大切さはイメージしにくい。		管理者・職員共に、地域との関わりの重要性を認識しており、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることをイメージできる具体的理念を全職員で作り上げることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々理念を念頭に置きながら、個人を尊重し、個人の力を活かすケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに住む職員もあり、また自治会には早い時期から加入して、地域の清掃活動等に参加している。コーラス・夏祭りなど事業所の行事に住民を招待したり、園児の訪問など、地域との交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に異動が多くあり、前回の改善に取り組めなかった。今回は全職員が各自、自己評価項目を検討し、管理者共に評価の意義を理解し、改善策を探っている。前回欠席の民生委員にも働きかけ、地域との連携を期待した取り組みを前向きに検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでは年1回の開催で、所長・管理者・地域包括支援センター・自治会・家族・職員の参加があったが、まだ管理者自身が会議のあり方を模索している。		様々な立場の人達が一同に会する機会を持つ事が大切である。そこでの意見や提案を質の向上に繋げ、また、地域の理解と支援を得る貴重な機会ととらえ、開催回数を増やし活用できるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は行政との行き来も多く、様々な情報交換を行い、和歌山市との連携を取り合っている。事業所からは適宜、介護保険利用時に行き来している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問する家族には、本人の様子などを定期的に報告し、訪問できない家族には担当スタッフが書いた個人の様子やケアプランを送付し、後で電話で意見を求めることもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した時はじっくり話を聞くようにし、意見・苦情を言いやすい関係作りを目指している。また、4ヶ月毎に開かれる家族会でも意見交換できる時間を設けて、要望などをサービスに反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は悩みを抱える職員の相談にのったり、また職員同士で話し合うことで離職を防ぐ努力をしている。それでも離職や異動がある時は、馴染みの関係に気を配り、職員の引継期間を半月程度は取るようにして、入居者に不安を与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人が多いので、認知症ケアや介護の基本の研修を月1回全職員を対象に行っている。回数は少ないが、外部研修も勤務扱いで受講できるが、職員の希望に沿えるほどの機会の確保はできていない。		職員の研修意欲は高く、外部研修の機会や情報をもっと増やし、また内部への伝達研修を通して、職員同士でスキルアップを目指すなどの取り組みを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者は同業者とのネットワーク作りに積極的だが、職員の参加の機会は確保されておらず、情報の提供も乏しい。		職員は他事業所やその職員との交流を日々のケアに役立てたいと思っている。今後、職員の参加の検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用から入居者に至ったケースでは、慣れるまで昼間はデイで過ごし、その後ホームに戻るように試みた。また、ホームでの滞在時間を少しずつ長くして、慣れてもらうような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の夏野菜や果物の収穫を喜び合ったり、その野菜と一緒にぬか漬けて食事に出したり、日頃から料理の仕方や味付けを教わっている。また、入居者から歌を教わったり昔話を聞いたりして、皆で和やかな時間を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々寄り添い、話を聞き、表情を見ながら本人の思いをくみ取るよう努力し、それを申し送りノートなどに記録して職員間で共有している。また、センター方式の一部を取り入れ、職員の気づきとなるよう、活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットごとに毎月カンファレンスを持ち、全職員で検討しながら、3ヶ月毎に「生活援助計画」を作成している。家族にも見てもらい書面・電話などで意見を頂くようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が日々の関わりの中で気付いたことを記録・検討し、3ヶ月に1回の計画の見直しに反映させている。毎月のカンファレンスの際にも見直すが、急な変化があれば連携する医療チームとも相談し対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスに参加し、いつもと違う雰囲気を味わい意欲を持てるよう支援している。また、同法人の訪問ステーションとの医療連携による24時間見守り体制や、介護タクシーでの受診支援等、医療面の多機能性も備えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の受診支援や往診可能な医師の紹介などを行っている。家族の通院介助が基本だが、できない時は職員が同行したり、同法人の介護タクシーを利用している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所での看取り体制は整っていて、新たに家族から重度化や終末期の説明・同意を得るべく、同意書の作成準備を進めている。本人とは日頃の会話の中から、意向を把握するよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報記録書類は、両ユニットの間にある事務所の棚をカーテンで仕切り、そこで管理している。日頃のケアでは本人を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけには充分注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が入居者に声をかけ、希望を聞きながらできるだけ沿えるように支援している。寝たきりの入居者にも心身の状態に配慮し、その時々希望に対応できるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食は配食サービスを利用するが、朝と昼はホームで作り、下ごしらえ・配膳・片付けなどができる人が手伝う。畑で獲れた野菜やスイカが食卓にのぼり、入居者・職員が共に食卓を囲み、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本として入浴は2～3日に1度で午後の時間帯であるが、希望に合わせて対応しており、夜間の入浴やシャワーもできる。最近は足浴も取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の力を引き出し生きがいを持てるように、職員は心がけている。掃除や菜園、洗濯物の整理、入居者の弾くエレクtoonに合わせて合唱する等、役割を持てるように支援している。前日の夏祭りのハッピーのアイロンがけも入居者が行っていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い足しに近くのスーパーへ出たり、気候の良い時期は近くの紀三井寺競技場や海南自然博物館へグループで出かける。歩行ができない人にも車椅子でホームの周りを散歩したり、玄関の脇で日光浴ができるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスに入る扉に鍵がかかっているが、ホームからデイサービスに続く廊下の扉には鍵はかかっていない。ホーム内の両ユニット間は真ん中の事務所を通過して自由に行き来できる。玄関からは散歩にも自由に出入りしやすくなるなど、設備改善もなされている。地域との連携も見据えながら今後の訓練計画を練っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員が手薄な夜を想定した避難訓練を毎年行い、訓練から得られた意見を取り入れ、玄関前のフェンスを一部外して出入りしやすくなるなど、設備改善もなされている。地域との連携も見据えながら今後の訓練計画を練っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食の支援をより良くするために、記録表を見やすく改善して、食事や水分の摂取量が正確に把握できるようにした。全職員で共有しながら、本人の適切な支援に繋げている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子を使用する人も無理なく動けるほどホーム全体がゆったりしたスペースで、くつろげる空間となっている。テーブルやソファの配置、のれんの使い方に工夫をこらし、入居者は思い思いの場所で過ごしている。浴室の外にはよすがが立てられ季節感を感じる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアには思い思いの表札やのれんがかけられ、住み手の個性が感じられる。使い慣れたタンスや各自の持ち物がたくさん置かれた居室が、居心地よい雰囲気になっている。転倒防止にカーペットを敷いたり、防寒のため布団の下に発砲スチロールを敷く工夫もしている。		